

原油市場展望

2026年6月



調査部 マクロ経済研究センター

<http://www.jri.co.jp/report/medium/oil/>

目次

◆現状・見通し……………p. 2

◆トピック……………p. 3

メルマガ	X (旧Twitter)	YouTube
 <p>経済・政策情報メールマガジン</p>	 <p>日本総研調査部X (旧Twitter)</p>	 <p>日本総研YouTube</p>

調査部 マクロ経済研究センター (米欧経済グループ)

研究員 梶野 裕貴 (Tel: 070-3344-2620 Mail: togano.yuki@jri.co.jp)

- ◆本資料は2026年6月9日時点で利用可能な情報をもとに作成しています。
- ◆「[経済・政策情報メールマガジン](#)」、「[X \(旧Twitter\)](#)」、「[YouTube](#)」でも情報を発信しています。

本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時点で弊社が一般に信頼出来ると思われる資料に基づいて作成されたものですが、情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また、情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがあります。本資料の情報に基づき起因してご閲覧者様及び第三者に損害が発生したとしても執筆者、執筆にあたっての取材先及び弊社は一切責任を負わないものとします。

原油価格見通し：当面100ドル前後で高止まり

◆現状：100ドルを挟んで乱高下

5月のWTI原油先物価格は、中旬にかけて100ドル台後半に上昇。米国とイランの間で戦闘終結に向けた交渉が難航するなか、イランがアラブ首長国連邦（UAE）にドローン攻撃を行ったほか、米国がイラン船籍の石油タンカーを攻撃したことが主因。

月末にかけて、80ドル台後半に下落。米国とイランの交渉が暫定合意に達し、トランプ米大統領の承認待ちの段階にあるとの報道を受けて、ホルムズ海峡の封鎖が解除されるとの期待が高まったことが背景。

6月入り後は、90ドル台で一進一退。イスラエルがレバノンの親イラン組織ヒズボラへの攻撃を強めたことで、価格が上昇。一方、両国の交渉が妥結するとの根強い期待が原油価格を下押し。

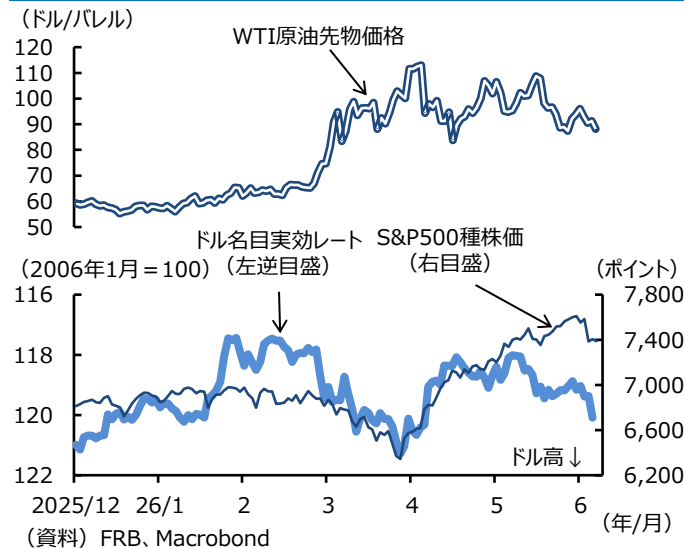
◆投機筋のネットポジションは高水準

3月にかけて大幅に拡大した投機筋の買い越し幅は足元で縮小。もっとも、両国の戦闘が再開するリスクを警戒し、買い越し幅は高水準で推移。

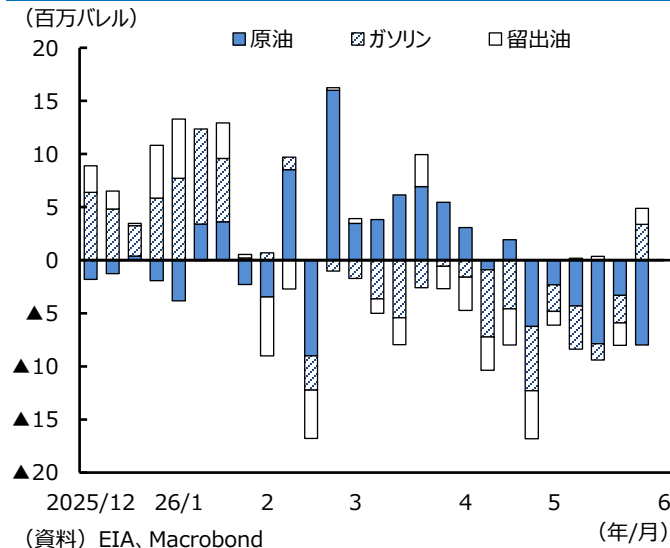
◆見通し：当面100ドル前後で高止まり

イランを巡る紛争が夏頃までに終結することを前提とするメインシナリオでは、原油価格は7月まで100ドル前後で高止まりした後、緩やかに下落する見通し。ただし、紛争が長引くサブシナリオでは、価格が年末まで100ドル前後で推移するほか、米国とイランが本格的に戦闘を再開する最悪シナリオでは、150ドルまで急騰する恐れ（各シナリオの詳細は次頁）。

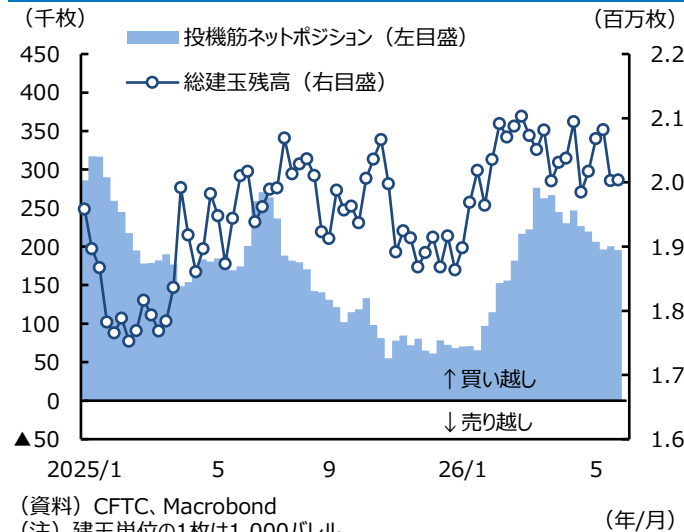
原油価格と株価・為替レート



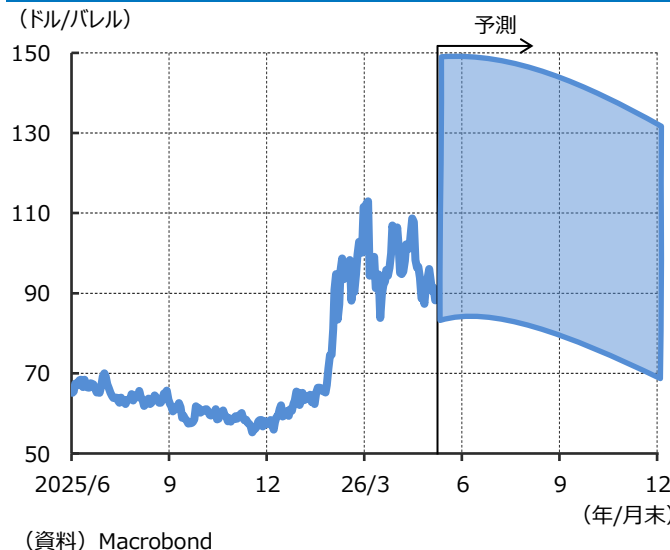
米国の原油・石油製品在庫（前週差）



WTI原油先物ポジション



WTI原油先物価格見通し



◆米・イラン交渉、7月までの妥結を想定

足元では、米国とイランが戦闘終結に向けた交渉を継続。メインシナリオとして、7月末までの紛争終結を想定。米国側は、7/4の独立記念日までの交渉妥結や、夏場のドライブシーズンに向けたガソリン価格抑制を目指す状況。イラン側も、軍事衝突や経済制裁を背景に通貨安が進んでおり、早期の紛争解決を目指す誘因あり。

◆紛争前の生産水準回復は早くも来年

メインシナリオでも、世界の石油生産が紛争前の水準を回復するのは27年入り後となる見通し。紛争が終結した後、ホルムズ海峡経由の海上輸送や、中東での石油生産が完全に正常化するまでには、少なくとも半年程度を要することが背景。

◆リスクシナリオは、一段の生産停滞

ただし、前述の経済面以外の理由で、交渉が難航する可能性も。紛争の終結時期が本年末まで後ずれするサブシナリオでは、中東の石油増産ペースが緩やかにとどまり、世界の石油生産は28年入り後も軍事衝突前の水準を回復しない見通し。

また、両国が本格的に戦闘を再開する最悪シナリオでは、イランがホルムズ海峡を迂回するルート（紅海・フジャイラ港など）を攻撃する一方、米国・イスラエルがイランの石油生産設備を破壊することで、日量▲1,000万バレル程度の追加減産が生じる恐れ。

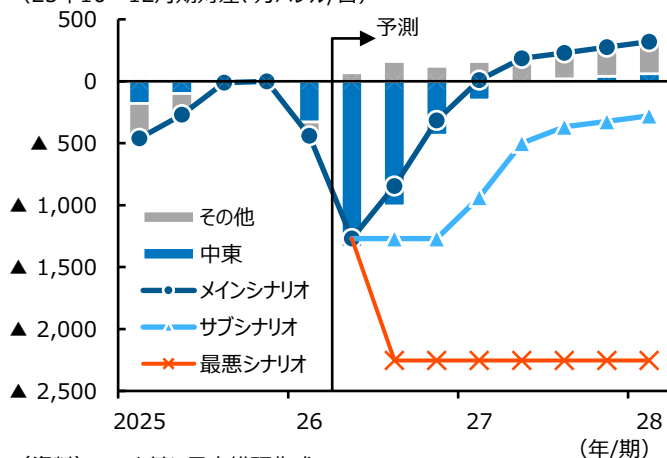
イラン情勢に関して今後想定されるシナリオ

	メインシナリオ	リスクシナリオ	
		【サブシナリオ】 戦闘は激化しないが、ホルムズ海峡封鎖継続	【最悪シナリオ】 戦闘が再開・泥沼化し、供給制約が一段と悪化
①紛争終結時期	26年7月末まで ※足元の停戦交渉が近日中に妥結	26年12月末まで ※足元の停戦交渉が長期化	27年1月以降 ※足元の停戦交渉が破談
②ホルムズ海峡	戦闘終結まで：封鎖 戦闘終結後：漸進的に正常化		
③中東の生産回復	半年程度 ※石油設備の追加被害は想定せず ※27年4～6月期に紛争前水準に	半年～1年 ※石油設備の追加被害は想定せず ※生産水準は紛争前の8割と仮定	1年以上 ※戦闘再開で石油設備に追加被害 ※1,000万バレル/日超の追加減産
④投機筋の動向	現状程度		活発化

(資料) 日本総研作成

世界の石油生産量の見通し（シナリオ別）

(25年10～12月期対差、万バレル/日)

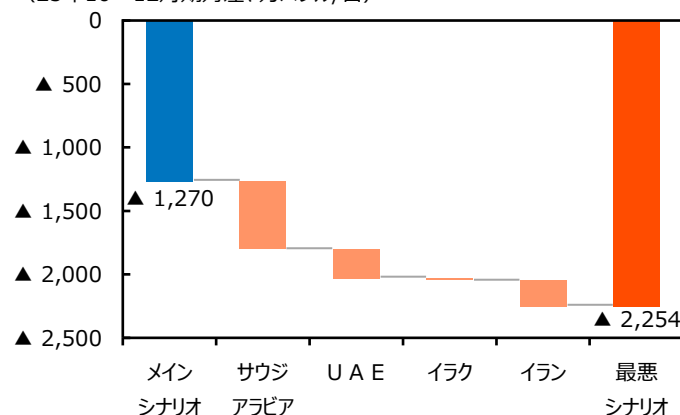


(資料) IEAを基に日本総研作成

(注) 26年4～6月期（Q2）については、IEAによる直近5月時点の予測。7～9月期以降の値は、日本総研のシナリオ別予測。

最悪シナリオで想定される追加減産

(25年10～12月期対差、万バレル/日)



(資料) IEAを基に日本総研作成

(注) メインシナリオは26Q2時点の減産幅。サウジアラビア/UAE/イラクは、紅海/フジャイラ/イラク・トルコパイプライン経由の石油輸出が不可能になり、輸出分と同量の減産を実施、イランは原油生産がゼロになる場合を想定。

公表済みのレポート（欧米経済関連）

詳細は、以下のリンクからPDF形式でご覧いただけます。

- | | | |
|--|-----------------------|-------|
| ▶ 米・イラン紛争を踏まえ、今後の原油市場をどうみるか — シナリオ別の生産・価格見通し — | 梶野裕貴 | 6月8日 |
| ▶ 英国の財政規律、地方選挙を受けて高まる緩和圧力—「ドーマー条件」が満たされにくいなか、金利上昇・ポンド安が進むリスク— | ジェイムズ・パターソン | 6月1日 |
| ▶ 日本と欧州が直面する「同盟国のトリレンマ」— 日本も辿る欧州の道、双方の協調で負担軽減を — | 立石宗一郎
中井勇良
西岡慎一 | 5月26日 |
| ▶ 為替介入後も根強い円安圧力 — 円安是正には成長力の向上が不可欠 — | 立石宗一郎 | 5月22日 |
| ▶ データセンターが押し上げる米国の電力需要 — 需給のひっ迫や供給の不安定化が投資・生産活動の重石となる恐れ — | 森田一至 | 5月22日 |
| ▶ 米中北京首脳会談に見える演出された安定と先送りの構図 | 福田直之 | 5月18日 |
| ▶ 米国の太陽光パネルでの産業政策の後退とその影響 — さらなる脱中国を重視、A I時代の電力不足への対応とのジレンマに — | 野木森稔、
ジェイムズ・パターソン | 5月15日 |
| ▶ 米中北京首脳会談で想定される論点 — 休戦の延長と対立の管理 — | 福田直之 | 5月11日 |